

防災訓練のすすめ

町の防災組織（自治会町内会等）において、「となり近所の助け合い」訓練を実施しましょう。いざという時に協力できる関係を築いておくために、自治会町内会に加入しましょう。

準備

助け合いのグループづくり、身近な集合場所を決めておきます。



ポイント! ●活動しやすい単位(グループ)は、**20軒(世帯)前後**です。

グループ訓練

活動する単位グループごとに集合し、安否確認の訓練を実施します。



ポイント! ●身近な集合場所で、各世帯の被災状況を確認します。
●安否確認は、1軒ごとに訪問(グループすべて)して確認します。
●無事を知らせる方法としてタオルなどを玄関先に掲げる方法もあります。

全体訓練

安否確認(上記①、②)実施後、町の防災組織(自治会町内会等)で集まって③～⑥の訓練を実施します。



ポイント! ●グループ訓練の後、町の防災組織(自治会町内会等)単位の訓練場所に集合し、被災状況や安否確認の結果を報告します。
●各種訓練(③～⑥)を行い、いざという時に何をやるのか学びます。

自助

3つの共助

公助

地震 発生後の災害対応の流れ



となり近所の助け合いの近助活動!
① 一時集合 ② 安否確認 ③ 初期消火 ④ 救出
⑤ 応急手当・搬送 ⑥ 情報収集・伝達

町の防災組織(自治会町内会等)の共助活動!
●安否確認 ●初期消火 ●救出
●応急手当・搬送 ●地域防災拠点への情報伝達 など

地域防災拠点の共助活動! (市内で1箇所でも震度5強以上の地震を観測した場合に開設)
●避難所運営 ●安否確認 ●情報収集 ●救出
●応急手当・搬送 ●ボランティア派遣要請・受入
●救援物資の受入・配布 ●区災害対策本部への情報伝達 など

公助
●区内の災害情報を集約(情報の一元化)
●市災害対策本部への情報伝達、応援要請
●消防隊等による消火、救助活動 など

日頃から地震への備え(自助)をすることが重要です

- 家の耐震補強、家具の固定(倒壊、家具の転倒による被害軽減)
- 感震ブレーカーや消火器の設置(通電火災の防止、消火の準備)
- 水・非常食、トイレバック、非常持出品の備蓄
- 蓄電池やソーラーパネル等の活用(停電への備え)
- 避難(場)所や避難経路の確認(避難の準備)
- 自治会町内会に加入し、防災訓練等に参加

あなたの身近な集合場所(いっつき避難場所など)

()

あなたの地域防災拠点

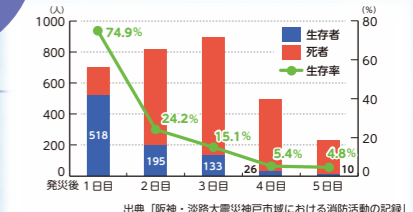
()

問合せ先 旭区役所総務課 〒241-0022 横浜市旭区鶴ヶ峰1-4-12 TEL 045-954-6007 FAX 045-951-3401
旭消防署 〒241-0022 横浜市旭区鶴ヶ峰1-4-12 TEL 045-951-0119 FAX 045-951-0119
2020(令和2)年3月発行

旭区ご近助マニュアル となり近所の助け合い



命を救うことは、時間との闘いです
阪神淡路大震災で神戸市域における消防活動記録では、1日目に救い出された人の生存率は約75%、2日目には約24%、3日目(72時間)には約15%でした。



1 一時集合

まずは！
大地震が発生したら...

身近な集合場所に集まろう！

(いっとき避難場所など)

身近な集合場所

公園
ごみ集積場所
駐車場
空き地など

集合住宅では、
棟前、エレベーターホール、区画ごとの階段下なども活用できます。

エレベーターホール
棟前

●集合場所は、地域で身近な集合場所(いっとき避難場所など)を決めておきます。

●自治会町内会の班(組)単位等で一時的に集合し、地域の安否確認や消火、救出、情報収集・伝達を行います。活動しやすい目安は20軒(世帯)前後です。

3 初期消火

やること

- 消火器を持ち寄って素早い消火
- お風呂の残り湯を使った消火
- バケツリレーによる消火
- 初期消火器具(スタンドパイプ等)を使った消火 など

Point!

●自分の安全を最優先に考え、多くの人と協力して行動することが大切です。

●危険を感じた場合には、無理をせず消火をあきらめて直ちに避難しましょう。

玄関先に消火器を置き、誰もが直ぐに使えるようにすることが有効です!

火事だ!

5 応急手当・搬送

やること

- 心肺蘇生とAED
- 出血に対する止血
- やけどに対する手当
- けが人の搬送
 - 平地：簡易担架や毛布、人力
 - 階段：車椅子や搬送器具 など

Point!

●搬送する際は、相手に恐怖感や苦痛を与えないようにしましょう。

足側から搬送

応急手当 直接圧迫止血法

さんじょ
旭区ご近助マニュアル

となり近所の助け合い

～みんなで生き残るための取組み～

2 安否確認

やること

- 近所の人たちの安否確認(確認内容)
 - 助けが必要/不要
 - 在宅/不在
 - けが人の有/無
- 安否情報を町の防災組織(自治会町内会等)に報告

Point!

●少数グループや階段の区画ごとに行うなど、地域の中で、安否確認の実施範囲を決めておきます。

●いざという時に助けが必要となる人たち(要援護者など)の情報を、地域の中で日頃から共有しておきます。

4 救出

やること

(家具や倒壊物の下敷きになった人の救出)

- 下敷きになった人への声かけ
- ボール、車のジャッキなどを使い、倒壊物の持ち上げ
- 作った隙間から下敷きになった人の救出など

Point!

●自分の安全を最優先に考えて、いつでも逃げられるようにしましょう。

●1人での活動は危険なため、必ず2人以上で活動しましょう。

6 情報収集・伝達

やること

- 班(組)単位のグループ内で情報収集
- グループで収集した情報を町の防災組織(自治会町内会等)に伝達

Point!

●集めた情報は、情報収集用の用紙を作成するなどし、漏れのないように記録しましょう。

●情報の伝達は、地域に応じた手段を使います。

※集めた情報は地域防災拠点に伝達します。

安否情報

被害状況(人、建物等)

要救助者の有無

火災の有無

町の防災組織(自治会町内会等)

情報を伝達